別9
18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』 請求記号 本別9-18

別9
18

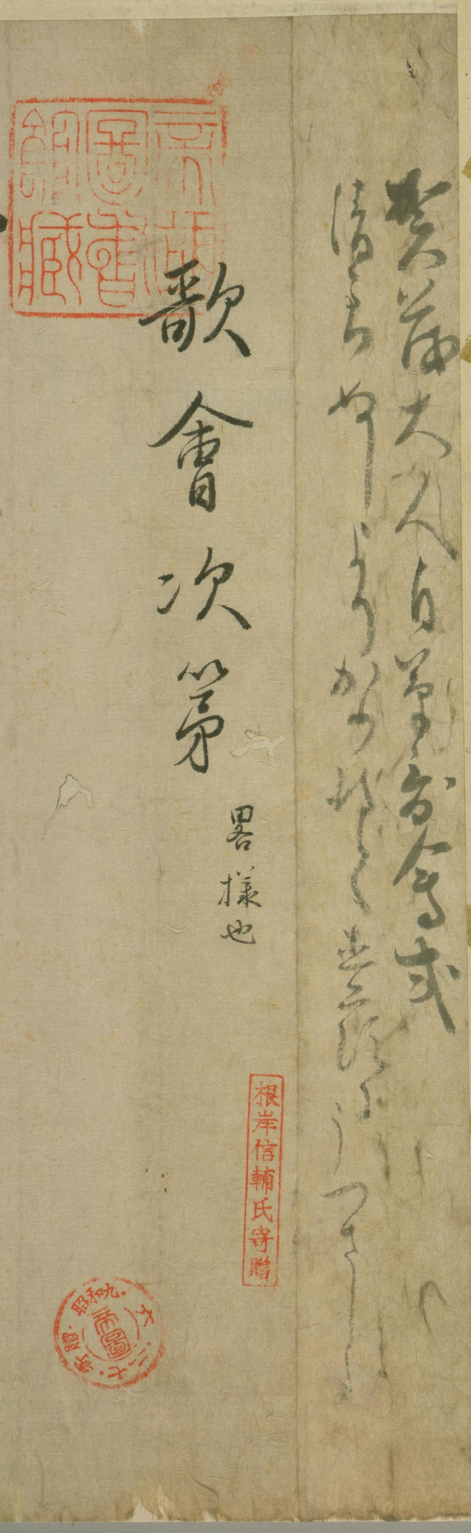
枝直千蔭詠草

附 歿会次第

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号 本別9-18

3-46

枝直千蔭詠草



歌會次第

署様也

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』 請求記号 本別9-18

根岸信輔氏寄贈

歌會次第

畧様也

先着座

上﨟よりして次第に奥端の座に着。○奥乃一に上﨟或ハ師着。端の一に上座。次に奥の二。次に端の二。次に奥の三。如此次第に着

次置懷紙

役送執之

但豫便取において懷紙を閲して重ね。下﨟を上にて。重ねて竪に二つに折て。文臺に置。文臺ハ硯蓋。或ハ折敷を用

次讀師進坐文臺前目發声

次發聲進座文臺之左助音

及付物次第進座發声之後

歌會にも後世ハ講師をも並て講師にあとよむまとまれと云會の講師ハ云へうもなし左畧之

次讀師唱歌。發声及付物應

之

後

歌會ハ後ニ講師ニ至て講師ニ至てよむまゝ
ニ會の講師ハ云へうもなし左署之

次讀師唱歌。發声及付物應之

讀師懷帋と文臺よりおろして座の左に並。その既に折る中より一枚づゝ引出し。文臺の上に伸並て讀。次の懷紙亦右のごとく引出て先の懷紙の上に重並て讀。次々同ぞ

次發聲助音付物退還座

但付物よりも退

次讀師置懷紙退還座

但懷紙讀ものゝ○のまゝ開並。さて文臺ながら前後ゑなほし。字跡を我方に向へ推寄て並べ

當座の詠るは
時ハ之しまてまて
終

次役送進當座之短冊

以下當座
短冊ゑる

豫書題三つに折て硯蓋にならべとゝ。

但書跡其軸二枚ハ上に横に並。さて役送硯蓋ながら捧て上臈の前に並。上臈書跡一枚を取早て。役送又硯蓋ながら ゑて懷帋の文臺の前に並て退。

次各次第起探短冊還座

但先端の一起て ゑ。次に奥の二。次に端の

蓋ながら捧て上﨟の前に並。上﨟其跡一枚を取早て。役送又硯蓋ながら云て懐帋の文臺の前に並て退。

次各次第起探短冊還座

但先端の一起て云。次に奥の二。次に端の二。次に奥の三。次第に如此起て云

次役送進硯。又進水滴。奥端各一

ゆとへば奥端にて十人ならば。先硯五つを主持て。奥の人の前に一つ置下し。端の座亦如此。但貴人あらば別に進。○硯は檀帋或は宿紙などをして包。筆と墨とをも別に包

次進紙

奥端の上座へ一帖づゝ進。各上座云て中より二枚抜出し前に並て。その帖をば次の人に附す。次に此に如此す。早て餘帋を役送云て退。さて各その二枚を主ぬがら横折にして。又竪に四つに折て側に並。

次各書題

墨をすると筆を懸じて硯によりせ並。彼料紙を云て題及名を書。短冊を其料紙乃間に捷。さて硯筆墨をかのごとく包収む

次各持硯料紙等退便所

便所なき時は退かずして。其席にして

墨をすり筆を悉じて砚によせ並。彼料紙を取て筆及名を書。短冊を其料紙乃間に挿。さて砚筆墨をかのごとく包収む

次各持テ硯料紙等退ニ便所ニ

便所なき時ハ退かぜして。其房にて

よむ

以上

一高貴の歌ある時ハ別に文臺に並て。右の次第早て別に録。

一女房の哥ハ先も別に文臺に並て。初め男懐紙を並時簷下より出すを。役送えて男懐紙の側に並。續師男懐紙を續早て即續之。

賀茂縣主真淵記

女房懐紙の事法

女房憶ゆの事法

うくむせの
こゝろなりせい
寄きこえぬ

山さとはいそ
まゝ成ちら
まし

女房憶ゆの二之三そこ事法

おりひはぬれをやへの
みろつしに落とし

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』 請求記号 本別9-18

蛇

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』 請求記号 本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号 本別9-18

東坡硯銘

藥林之石
黃素之諭
宮妃捧出
月裏蟾蜍

唐渤海奏使来于大宰府拜
謁　菅公親所圖之　聖像
公之臣横尾某甲護持（祕藏カ）而傳之
至其末裔唱々嘗携（テ）来遊
[illegible]邸詩注告廣行青号

（唐トヤセハ　不モ時代モ知レヌ（ヘ）（左若ノ二字モナクテ宜カランカ）
且菅公ニ得見スヒハ時代ハアキラカニ）

紫檀大嘗会洪水記
開口
吏安女長久地毋平安迩
八隅斯留我
大君乃御免倶美鏑彼能
山乃蔭繁末千代迩始迩
大嘗遠聞食寸太倍百
御末農大宮人波咲迩
保布花遠迦射之呂御
刀代乎加瑠賤夫毛諸友迩
千都賀八百都賀津賀
曾女氏御代農留止伊彼
布志流祢丹浦安乃
名尓漲比氏女天乎加久
理計留時登志加屋

曾我祐武記
源之寛

明和二年二月十三日

いにしへをしたふ人のかはつたは
みたのみれなれたの世を
[illegible]
みたのかはつをみんつるる
[illegible]

十月五日　[illegible]公ヘ下上
紅葉殘梢
[illegible]
[illegible]一枝のこる秋の景
[illegible]
枝直

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

東坡硯銘

藥林之石
黃素之諭
宮妃捧出
月裏皓蛤

[illegible]
千都賀八百都賀津家
當女[illegible]御代[illegible]止使
[illegible]者流都丹浦生乃
名木漲比氏女天乎[illegible]
理計留時登志屋

[illegible]
[illegible]
[illegible]

或題書

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

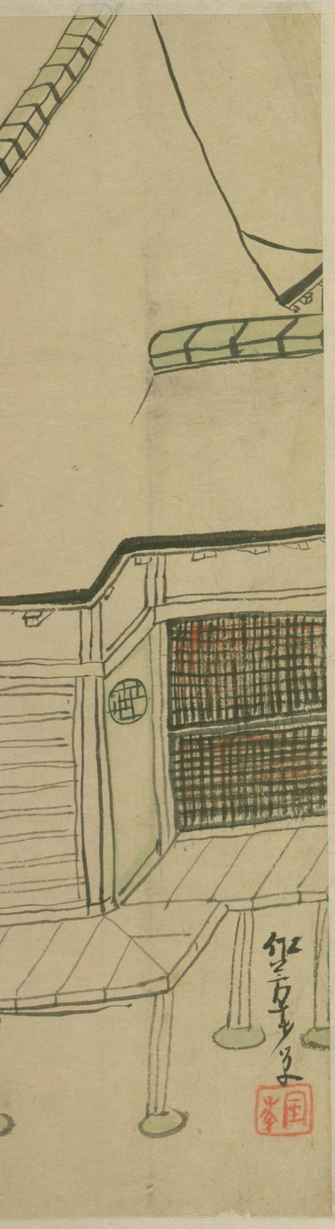
夏歌

白

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

白

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号 本別9-18



国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号 本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』 請求記号 本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

枝直初名為直歌
加茂大人添削

山家樗

為直

山にとをけに世のかと
[illegible]
あつちは[illegible]
夏木 皆月
山の[illegible]
[illegible]
みしかなの[illegible]
瀧下蕈
[illegible]

加茂大人添削

[illegible]

[illegible]

橋千蔭

[illegible]
名立[illegible]
[illegible]
関屋
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』 請求記号 本別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

芳宜園蔵

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号　本別9-18

加義大人書翰

橘宮

[illegible]

紀州 [illegible]山[illegible]
并 [illegible]

芳宜園蔵

[illegible]

造氏葉倣

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』　請求記号 本別9-18

別9-18

国立国会図書館　タイトル『枝直千蔭詠草』 請求記号 本別9-18